

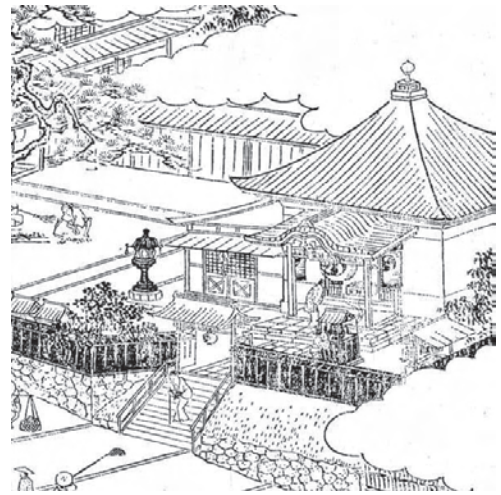
3.4.2.2.3. 方形屋根をもつ建築

方形建築は主に宗教施設の伽藍内に建てられており、お堂や、本堂、経堂、弁天と様々な名称の施設として使われている事が『江戸名所図会』の図版の書き込みより分かる。

本節の分析では『江戸名所図会』に描かれている、火の見櫓や仏塔以外の方形屋根をもち、人の入れる内部空間をもった建物全てを対象に、1. 門や鳥居が示す軸上に方形建築が建てられている事 2. 伽藍内のその建物が建っている同一地盤、もしくは接触している街区において一番高い事の有無について103件の方形建築を対象に統計を取った。右に結果を表にまとめた。

それによると、6割の方形建築はその伽藍や周辺環境において高くもなく軸線上に建てられてもいなかった。およそ2割の伽藍上で一番高くても軸線上に建てられてない建物や、軸線上にあるが高さが一番高くない建物も、実際に象徴的な建物として認知されるかは疑いがある。これらの建物は多くの場合、軸線上に建てられてたり、高い中心的建物が隣接している。

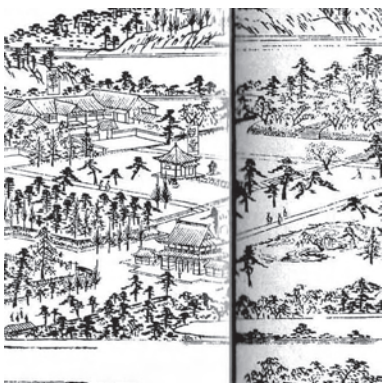
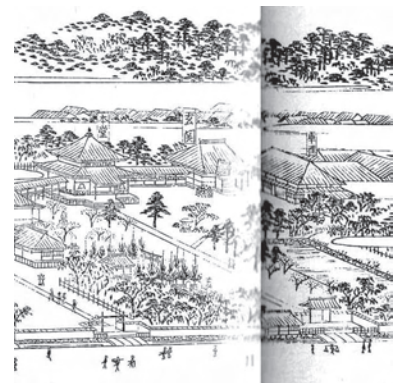
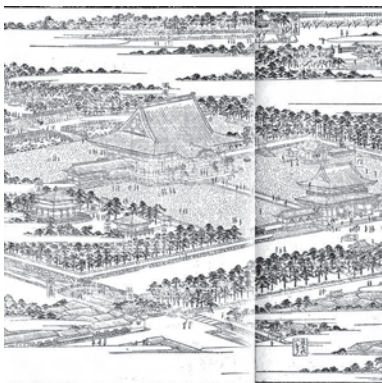
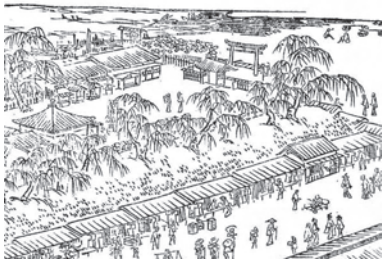
また、軸線上に建っており、かつ伽藍や接触している街区内で一番高い方形建築は、全体の2割存在した。



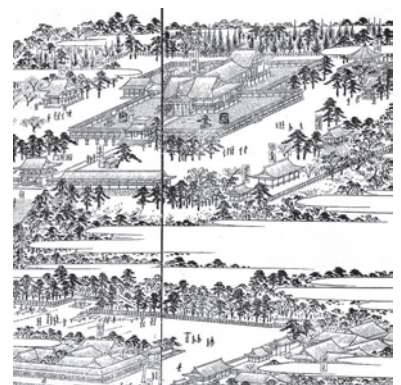
軸線上に建てられている、かつ 同一平面で一番高い建物である	23 (22.3%)
軸線上に建てられていない、かつ 同一平面で一番高い建物である	8 (7.8%)
軸線上に建てられている、かつ 同一平面で一番高い建物でない	11 (10.7%)
軸線上に建てられていない、かつ 同一平面で一番高い建物でない	61 (59.2%)

表6- 方形屋根をもった建築

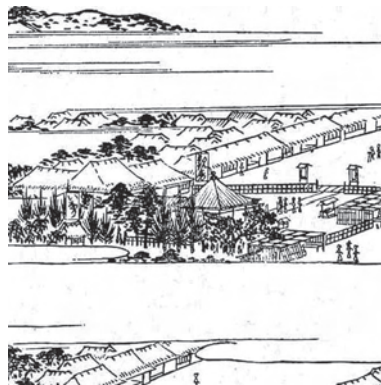
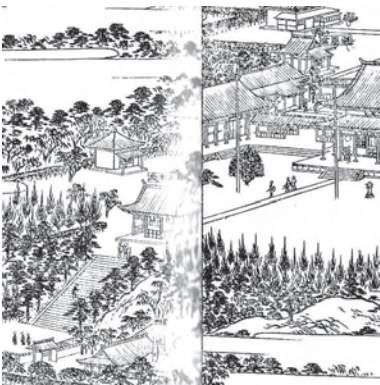
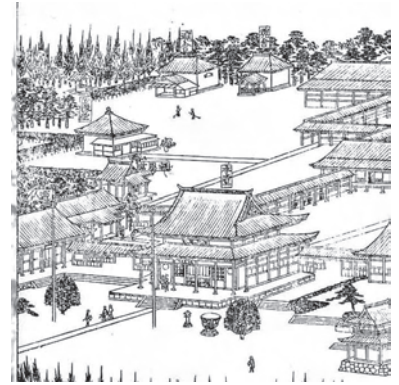
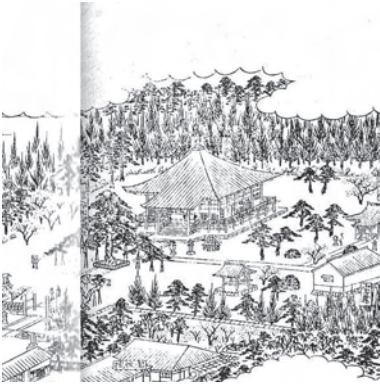
方形屋根の建築 1



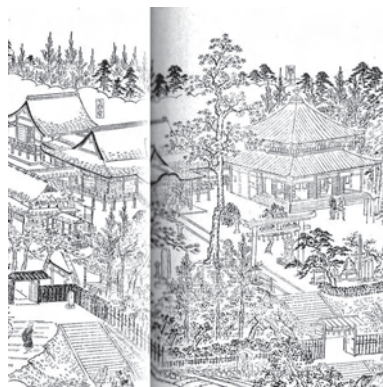
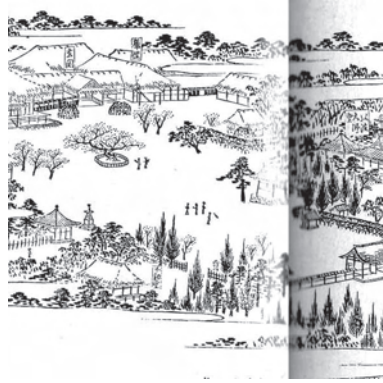
方形屋根の建築 2



方形屋根の建築 3



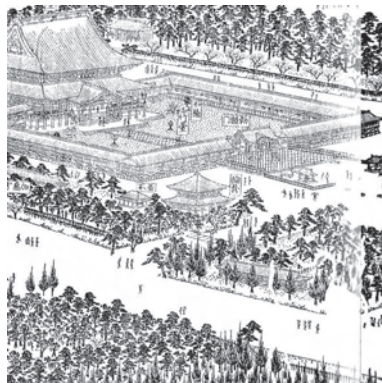
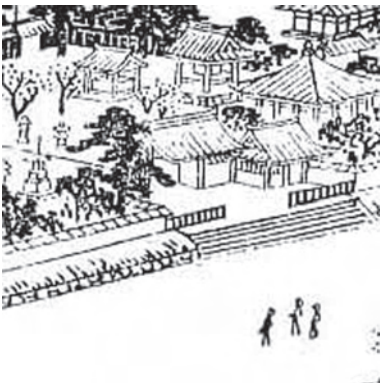
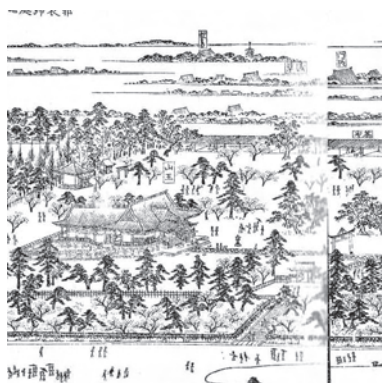
方形屋根の建築 4



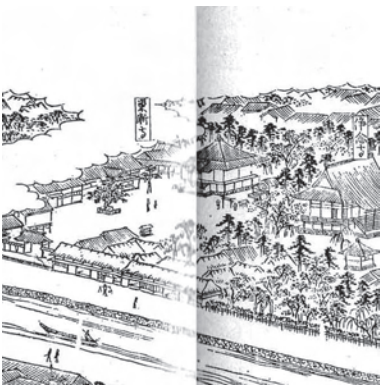
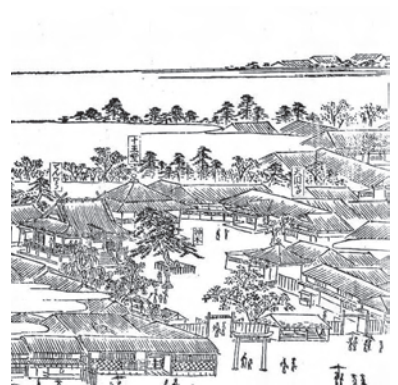
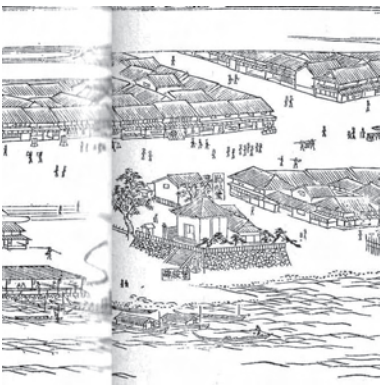
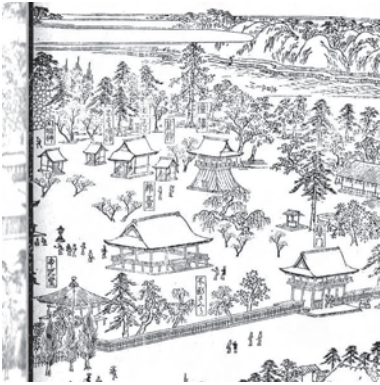
方形屋根の建築 5



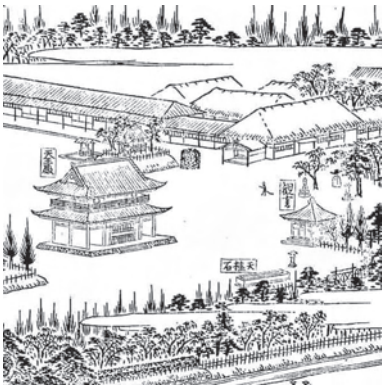
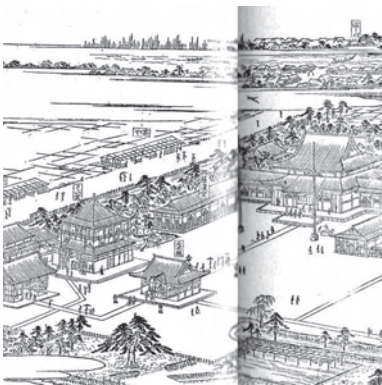
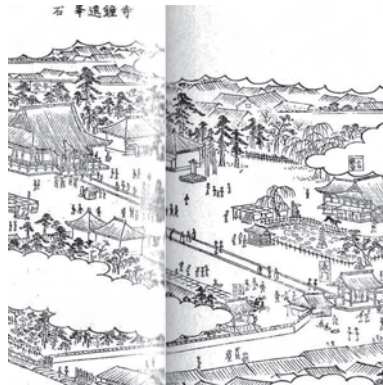
方形屋根の建築 6



方形屋根の建築 7



方形屋根の建築 8



方形屋根の建築 9



3.5. 本章のまとめ

本章では『江戸名所図会』の特性を明らかにし、これに描かれている江戸の都市空間における垂直要素に関する4つの分析を行った。

まず、『江戸名所図会』に掲載されている名所の分析を行う事で、都市要素に関して名所として取り扱われる場所や施設を明らかにした。そこでは宗教施設が圧倒的に多く「名所」として取り扱われている一方、火の見櫓や城は「名所」として扱われていなかった。

次に、『江戸名所図会』に描かれている図版の中の遠景を対象にスカイラインの分析を行った。それによると、スカイラインを構成する家並みや樹木の高さを超えるものとして最も多かったのは大屋根であり次点に火の見櫓・はしごであった。ここで言う大屋根はほとんどは宗教施設の屋根だと予想される。このことより、『江戸名所図会』に描かれた江戸の都市空間におけるモニュメンタリティーを考える時、宗教施設の屋根、次いで火の見櫓が重要であると結論づけた。

以上より、分析対象を宗教施設の中心的建物、火の見櫓、仏塔、それ以外の方形屋根に絞ってそれらの象徴性を検討した。『江戸名所図会』に描かれている多くの宗教施設は中心的建物を相対的に他の建物より高く建てようという意思を感じさせるものは多くあったが、象徴的な高さを獲得しようという意思を感じさせるものは少なかった。また、伽藍内での中心的建物の位置や拝殿との高さ関係は様々であり、特定のルールは見いだせなかった。また、火の見櫓、仏塔、それ以外の方形屋根に関しては、全てのケースでその形態が映えるような周辺関係を持っているものと、そうでないものがあり、火の見櫓と仏塔に関して特別な偏りが確認されなかった。それ以外の方形屋根を持った建物は、多くが象徴性を感じないような環境や高さであった。

これらのことより、『江戸名所図会』で描かれた江戸で、象徴性を獲得できた可能性のある垂直要素は寺の大屋根や火の見櫓、仏塔であるが、それらが一律に強い象徴性を獲得していた訳ではなかった。ある固有のビルディングタイプがモニュメンタルな象徴性を高さを用いて獲得するという事は無く、むしろ周辺環境などの初期条件に対応して固有の象徴性を作り出していた事が予想できる。